

令和8年8月5日

芦屋市議会議長 中島 健一 様

総務常任委員長 福井 美奈子

総務常任委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告します。

記

- 1 日 程 令和8年7月29日（水）～7月30日（木）
- 2 視察先及び
視 察 項 目 新庁舎の整備について（東京都中野区、埼玉県越谷市）
- 3 参 加 者 委 員 長 福井 美奈子
副 委 員 長 中村 亮介
委 員 ひろせ 久美子、中島 健一、
橋本 隆、西村 まさと
随 行 市議会事務局議事調査課 寺川 貴嗣
- 4 視察報告書 別紙のとおり

以 上

令和 8 年度 総務常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和 8 年 7 月 2 9 日（水） 1 3 時 3 0 分 ～ 1 5 時 3 0 分
視 察 先	東京都中野区
視 察 内 容	新庁舎の整備について
視 察 目 的 （視察先選定理由）	芦屋市では、複数ある庁舎のうち築 65 年が経過した本庁舎北館の老朽化対策として、北館の執務スペース等を他の庁舎で確保すべく、今年度詳細を検討することが示されている。これに伴い、市議会においても効率的な床利用を具現化すべく、「議会フロア検討会議」が発足したところである。庁舎内の市民スペース及び執務空間を有効かつ効率的に運用するための具体策や、それに伴う業務合理化・住民サービス向上への波及効果について、先進事例を拝承し、今後の施策の参考とするため選定した。
調 査 概 要	■ 概要 東京都中野区は、面積 15.59 km²、人口は約 34 万人。 中野区新庁舎は、JR 中野駅から徒歩約 6 分の場所に位置し、地上 11 階地下 2 階、令和 6 年 5 月 7 日に開庁した。環境性能の高さと先駆的な市民サービスを兼ね備え、未来志向の庁舎として注目を集めており、来庁者数は全国トップクラスである。 ■ 新庁舎について 中野区が目指すまちの姿は、「つながる はじまる なかの」。新庁舎 1 階のイベントスペース「ナカノバ」は、区民の「つながり」や、新しい交流・活動が「はじまる」拠点となっている。そこには大型モニターが備えられ、200 人の収容が可能とのこと。民間団体等に夜間・休日を含めて貸出しを行う。新庁舎のオフィスは、職員がもっと「つながる」ことを目指して設計されており、新しい政策が「はじまる」拠点となることをコンセプトにしている。 ・庁舎設計について、耐震・環境・景観が調和した安全で環境にやさしい庁舎を目指した。洗練されたモダンなファサードに目がいく。また、環境性能にも優れ、都内自治体庁舎初の「ZEB Ready」認証を取得している。豊かな自然光を導く吹き抜け構造や、随所に施された高性能断熱材など、建物全体が優れた省エネ性能を体現している。 ・区民の快適性向上について、なかのスマート窓口での、お客様は「動かない・迷わない窓口」の仕組みは印象的であった。従来のように住民が各課を歩いて手続を進めるのではなく、職員や情報が動くことで、1 つの窓口（部署によっては複数）で複数の手続を完結できる設計であり、参考にしたい。 ・職員の執務環境について、窓口ゾーンと執務室ゾーンを区別しているため、執務室ゾーンに来客はなく、静かで業務に集中できるメリットがある。固定電話を廃止し、モバイルにしている。そしてフリーアドレス制を導入。部長室と同様に課長席も廃止しており、役職を超えたコミュニケーションが活性化し、職員間の連携がスムーズになり、働きやすい環境が整備された。自席に縛られることなく、庁舎内の多様なスペースを自由に利用できることから、テレワークや出張も格段に快適になったとのこと。ペーパーレス業務も推進している。他にも様々な機能があるが、館内にはキッズスペースや授乳室、多機能トイレも整備されており、子育て世代への配慮も行き届いている。
所 感 （意見・感想・今後の課題等）	中野区役所では、来庁者の利便性向上、執務スペースの効率的活用やフリーアドレス制の導入など、民間企業さながらの先進的な業務改革を推進している。説明資料で区民を「お客様」と表記する姿勢を含め、未来志向のオフィス空間と進化した行政サービスからは、多くの示唆を得られた。フリーアドレス制導入に際しては、浸透するまでの課題はあったものの職員の努力により改善している。 また、スマート窓口の取組は本市においても参考にしたい。こうした先進事例の核にあるのは、職員の強い信念と熱意である。説明をされた職員の「業者任せではなく、自分たちがこの庁舎を創る」という強い責任感に、大いに刺激を受けた。 芦屋市においても、中野区に比肩する新たな挑戦を盛り込んだ、新庁舎整備の実現を期待したい。

令和 8 年度 総務常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和 8 年 7 月 3 0 日（木） 1 0 時 0 0 分 ～ 1 1 時 3 0 分
視 察 先	埼玉県越谷市
視 察 内 容	新庁舎の整備について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	芦屋市では、複数ある庁舎のうち築 65 年が経過した本庁舎北館の老朽化対策として、北館の執務スペース等を他の庁舎で確保すべく、今年度詳細を検討することが示されている。これに伴い、市議会においても効率的な床利用を具現化すべく、「議会フロア検討会議」が発足したところである。 2021 年に建て替えられた越谷市新本庁舎は、「市民と職員が空間を共有し、お互いの活動を高め合うオープンな構造」を取り入れた点が先進的であると評価されている。市民が憩うスペースと職員が働くスペースを有機的につないでいる点など、その内容や特徴についてご教示いただき、現在本市で進めようとしている庁舎リニューアルでの床スペースの有効利用など検討の参考とするため選定した。
調 査 概 要	■ 概要 越谷市は東京都心から約 25 キロ圏内にある人口約 34 万人の住宅都市で、江戸時代には宿場町として商業が発展し、元荒川、葛西用水などの多くの河川、用水が流れ、緑豊かな自然に恵まれている。また、広大な調整池を中心に、良好な住宅地や国内最大級の大型商業施設が集約した親水文化創造都市「越谷レイクタウン」が誕生した。市政施行は昭和 33 年 11 月 3 日、人口は 34 万 1,379 人（令和 8 年 4 月 1 日現在）。埼玉県南東部に位置しており平成 27 年に中核市に移行した。 ■ 新庁舎について 1969 年に建設された越谷市役所旧庁舎は、築 50 年以上が経過し、老朽化とともに防災対策、情報化・バリアフリー化への対応が不十分な状況にあった。そこで、庁舎敷地内での本庁舎の建て替えを目指し、2014 年に基本的な方針を示す「越谷市本庁舎整備基本構想」を、2016 年には具体的な計画である「越谷市本庁舎建設基本計画」を策定し、その後、一部見直しや基本設計・実施設計を経て、2021 年に本庁舎が竣工。続いて、市民協働ゾーンや外構整備を行い、2024 年 3 月に全体が完成した。 ・設計コンセプトは「中核市・越谷の新たな拠点となる『人・環境・歴史・安心』をつなぐ庁舎」を掲げる。環境とつなぐ『水郷テラス』は市民の憩える場所として開放感があり魅力ある空間となっている。また、人と人をつなぐ『みんなのひろば』はエントランス棟のエントランスホールを 1・2 階吹抜けとして、各種イベントや市民交流にも活用できる場として整備されにぎわいある空間を創出している。安心をつなぐ『防災拠点』については、災害による緊急時に空路からのアプローチも可能とするためホバリングスペースが屋上に設けられていたり、大地震の際に天井材等の落下防止に向け、天井を張らない構造になっている点は興味深い。 ・窓口業務については、総合窓口化ではなく、個別窓口の効率化と手続の短縮化を推進している。なお、フリーアドレス制の導入は行っていない。越谷市では新庁舎の検討組織には議会からも参画している。
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	・越谷市は新本庁舎の建設において、行政手続のためだけの空間にするのではなく、テラスやエントランスホールなど「市民が日常的に気軽に立ち寄り、憩えるパブリックスペース」を確保し、地域の景観や歴史的アイデンティティと融合させている点で、参考になる素晴らしい事例である。同市が新本庁舎建設の基本理念の筆頭に掲げる「すべての市民に開かれた庁舎」の視点は本市にとっても重要な着眼点といえる。現在、芦屋市役所北館 1 階のカフェスペースは、多くの方が利用され憩いの場になっている。こうした現状を踏まえ、本市においてもさらなるパブリックスペースの充実に向けた施策を求めたい。 ・議場には発言者の声をクリアに聞き取れるようにするため、床に磁気ループが装備されている。加えて親子傍聴席が設けられ、誰もが議会に参加しやすい環境が整えられており参考となった。

視察の様子（令和8年度 総務常任委員会）

視 察 先 ①

7 月 2 9 日
東 京 都 中 野 区



東京都中野区役所を訪
問しました。



中野区企画部企画課の
職員の方にご説明いた
だきました。

視 察 先 ②

7 月 3 0 日
埼 玉 県 越 谷 市



埼玉県越谷市役所を訪
問しました。



越谷市総務部庁舎管理
課の職員の方にご説明
いただきました。

※この「視察の様子」のページは市議会事務局職員が作成しています。